

報道関係者各位

2021年12月16日

2022年の衛生意識はどうなる!?

20代～60代の男女1,000人に聞く **コロナ環境下での衛生意識・衛生管理行動実態調査**

85%が外出を伴うイベントや旅行に「参加したい」と回答するも、 「衛生対策に不安があるとやめる」75%

巷にはびこる、よくわからない感染対策に、東京医療保健大学 菅原教授がズバリ回答 **感染対策のアレマルコレダメ×**

アルコールは机に直接スプレーした方がいい？「ボタンは指の第二関節で押す」の予防効果は？

株式会社ダスキン（本社:大阪府吹田市、社長:山村輝治）は、20代～60代の男女1,000人を対象にコロナ禍での衛生意識・衛生管理行動に関する実態調査を行いました。2022年は新型コロナウイルス感染拡大から3年目となります。2022年の衛生意識について聞くとともに、現在の衛生意識や衛生管理行動について、2021年2月に行った調査結果との比較も交えながら考察しました。

また、3年目を迎えても未だにわからない感染対策をピックアップし、感染制御の専門家・菅原えりささんにお話を伺いました。

※本調査では、「新型コロナウイルス感染症拡大前」を2020年3月以前と定義しています。

2022年、旅行や飲み会などの外出意向が高まるも、感染対策は十分行う「共存期」に (P.3)

Q.2022年、外出・イベントに参加したい？

「参加したい」85%



1位 国内旅行



2位 外食・飲み会

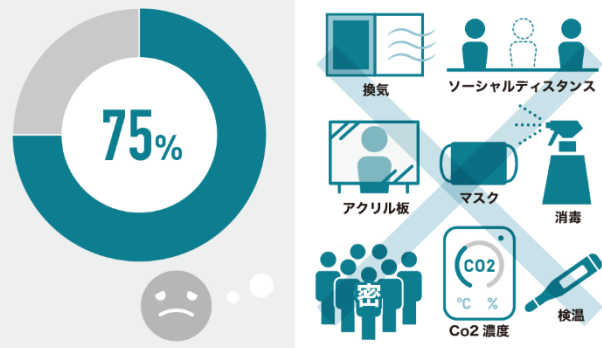


3位 帰省



Q.2022年、外出先を選ぶポイントは？

衛生対策に不安があると、
店舗やイベントに行くのはやめようと思う

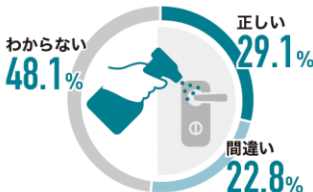


コロナ禍3年目を迎えるにもかかわらず、間違っている・わかっていない感染対策 (P.6)

Q.コロナ禍での衛生行動について3択でお答えください

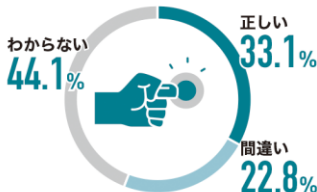
手すりやドアノブのアルコール消毒は、直接スプレーするのが効果的

正解 X



エレベーターのボタンは、指の第二関節で押すとコロナ感染予防に良い

正解 X



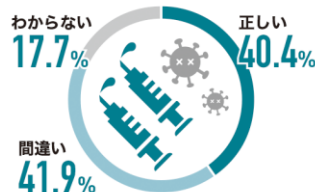
手洗いをした後は、アルコール消毒をしなければならない

正解 X



ワクチン接種を2回行ったので感染リスクがない

正解 X



くらしのリズムを整えよう♪

主な調査結果 20代～60代の男女1,000人に聞く、コロナ環境下での衛生意識・管理行動実態調査

2022年、旅行や飲み会などの外出意向が高まるも、感染対策は十分行う「共存期」に (P.3)

- 2022年、外出を伴うイベントに85.0%が「参加したい」〔図1〕。
- 参加意向TOP3は「国内旅行」(70.1%)、「外食・飲み会」(64.4%)、「実家への帰省」(54.4%)〔図1〕。
- 外出意欲が高まるものの感染対策意識は緩まず。84.4%が「人が多く集まる場所への外出は避けたい」、75.9%が「衛生対策に不安があると、店舗やイベントに行くのはやめよう思う」と回答〔図2〕。感染対策しつつ外出も楽しむ共存期に移行の兆し。

衛生意識は高いまま変わらず あえて意識しなくても身に付く定着傾向 (P.3-4)

- 現在の衛生意識、コロナ前と比較し「意識が高くなった」(64.1%)、緊急事態宣言中と比較し「変化なし」(52.9%)〔図3〕。宣言解除後も衛生意識は引き続き「高め」をキープ。
- 2021年2月と比べ、家庭での衛生に対する「意識」は低下(2月80.2%→10月64.1% -16.1pt)〔図6〕、衛生管理行動「慣れ」は増加(2月69.9%→10月81.1% +11.2pt)〔図7-2〕。長引くコロナ禍で衛生意識が定着したと推測されます。

コロナ禍3年目でニューノーマルがノーマルに 意識に伴い行動も変化 (P.3 P.5)

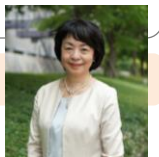
- コロナ禍3年目を前に、現在行っている衛生管理行動TOP3「マスクをつける」(89.5%)、「手洗い・うがいをする」(77.1%)、「手の消毒をこまめに行う」(63.6%)〔図4〕。
- 既に当たり前になった衛生管理行動TOP3「密に見える場所や店舗には近寄らない」(45.2%)、「発熱や風邪の症状がある場合は外に出ない」(32.3%)、「公共交通機関の利用を控える」(31.3%)。3割が「現金を使わずキャッシュレス決済を利用」(30.6%)、4人に1人は「マスク入れを持参している」(25.6%)などニューノーマルもスタート〔図8〕。

コロナ禍3年目を迎えるにもかかわらず、間違っている・わかっていない感染対策 (P.6)

- 正解がわからない感染対策TOP3、「手すりやドアノブの消毒にはアルコール消毒を直接スプレーするのが良い」(わからない48.1%)、「エレベーターのボタンは指の第二関節で押すと感染予防に良い」(同44.1%)「手洗いをした後は、アルコール消毒をしなければならない」(同39.3%)〔図10〕。コロナ禍3年目を迎えるにもかかわらず、実はまだまだ正解がわからないことも多いようです。

調査概要 ■実施時期：2021/10/29(金)～11/1(月) ■調査方法：インターネット調査 ■調査対象：全国の20代～60代の男女1,000人(年代性別に各100人)
 ※集計データの構成比(%)は小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%にならない場合があります。
 ※新型コロナウイルス感染症に対する対策として提示している選択肢が正しいとは限りません。

東京医療保健大学 菅原教授に聞く 衛生管理のアレマル コレダメ



- 消毒スプレーは「シュッ」だけではダメ。清潔な布などで拭きとることが大事。
- エレベーターのボタンをどの指で押しても感染予防効果には違いはありません。触れたあとに必ず手洗い・消毒を。
- 周囲に人がいなくても、会話をしなくてもマスクは原則として着用するのが○。熱中症の危険のある暑い日や激しい運動時などは、状況に応じて判断しましょう。

本調査結果を受けたダスキンからのコメント

- 当社ではコロナ禍以前より衛生・清掃関連商品やサービスを提供していますが、コロナ禍で高まった衛生意識を受けて、出入口の衛生対策として抗菌・抗ウイルス加工を施した「吸塵・吸水マット」、室内の空気の衛生にも注目されていることから空間清浄機「クリア空感」、また「エアコンクリーニング」のご相談・ご依頼が増加しています。
- 緊急事態宣言後に営業を再開する飲食店などからは、客席等への抗菌サービス施工の依頼も入っています。コロナをきっかけに高まった衛生意識は、緊急事態宣言解除後も引き続き高い状態であり、2022年以降も外出と感染対策の両立が重要だと考えられます。当社の商品やサービスで、そのサポートしてまいります。

■ コロナ禍3年目の2022年 85.0%が旅行や飲み会など外出イベントに参加意向あり

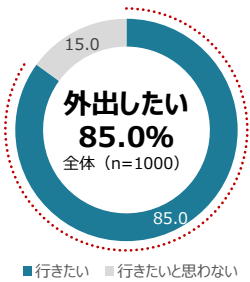
自分自身にも行く場所にも感染対策はしっかりと 「感染対策」が外出先を決めるジャッジポイントに

2022年は、コロナ感染拡大から3年目となります。ワクチン接種も進んできた今日、来年こそは！と期待する人も少なくないようです。旅行や飲み会、コンサートなど自粛してきた外出を伴うイベントの2022年の参加意向を聞くと、全体の85.0%が外出イベントに「行きたい」と答えました。具体的には「国内旅行」（70.1%）が最も高く、「外食・飲み会」（64.4%）、「実家への帰省」（54.4%）、「コンサート・ライブ」（36.8%）、「スポーツ観戦」（30.6%）の順となりました【図1】。

外出意欲は高まるものの感染対策意識は引き続き高く、84.4%が「人が多く集まる場所への外出は避けたい」、75.9%が「衛生対策に不安があると、店舗・施設・イベントに行くのはやめようと思う」と答え、逆に72.9%が「衛生対策を実施している店舗・施設・イベントに行きたいと思う」と答えています【図2】。自らにも外出先にも感染対策を求めつつ外出を楽しむ、感染対策と外出の共存期となりそうです。コロナ収束が期待される2022年、感染対策をしっかりと実施していることが外出先として選ばれる基準になりそうです。

【図1】 2022年 外出イベントへの参加意向

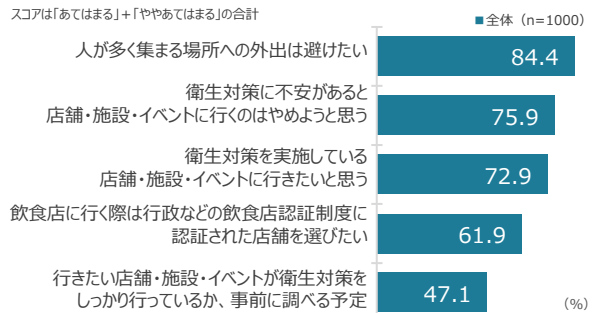
【図2】 2022年 外出先を選ぶ意識



● 2022年 行きたい外出イベント (複数回答)

国内旅行	70.1
外食・飲み会	64.4
実家への帰省	54.4
コンサート・ライブ	36.8
スポーツ観戦	30.6
キャンプ	27.6
海外旅行	26.6
スパ・エステ	25.1
習い事・趣味の教室・スクール	23.5
スポーツジム	20.7

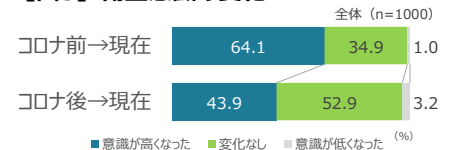
全体 (n=1000) (%)



■ コロナで高まった衛生意識は、緊急事態宣言解除後も変わらず「高いまま」キープ

現在の衛生意識について聞くと、コロナ前（2020年3月以前）と比べ「意識が高くなった」（64.1%）が最も多くなっています。また、コロナ流行から緊急事態宣言が明けるまで（2020年4月～2021年9月）と現在を比較すると、「変化なし」（52.9%）が最多で、「意識が高くなった」（43.9%）が続いています【図3】。

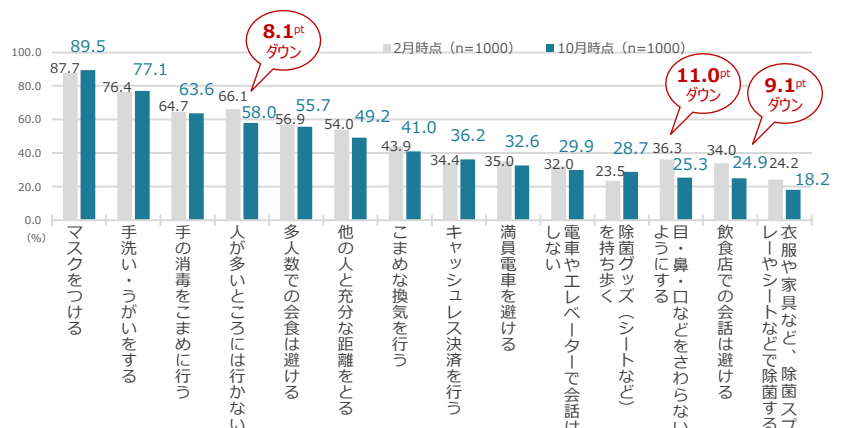
【図3】 衛生意識の変化



私たちの衛生意識は、コロナ前と比べるとずっと高まりましたが、緊急事態宣言が解除されてもその意識は変わらず、維持されているようです。コロナをきっかけに高まった衛生意識は、外出と感染対策の共存期にも継続されていきそうです。

次に、衛生のために行う具体的な行動を聞くと、「マスクをつける」（89.5%）、「手洗い・うがい」（77.1%）、「手の消毒」（63.6%）などを実践する人が多くなっています。2021年2月に行った調査結果と比べるとほぼ変わらないものの、「目・鼻・口をさわらない」（2月36.3%→10月25.3%）は11ptダウン、「飲食店での会話は避ける」（2月34.0%→10月24.9%）は9.1ptダウンしています【図4】。

【図4】 衛生管理行動の変化（2021年2月と2021年10月）



衛生に対する意識は変わらないものの、個別に見るとやや緩んでしまった衛生管理行動もありました。そのような行動については、再び高い意識で取り組んでいく必要があります。

■ 外出先での衛生 不特定多数が集まる場所は不安度高め

今後外出する機会が増え、いろいろな場所に行くことが増えてきそうです。そこで、外出先の場所ごとの衛生に対する不安度を聞きました。衛生に不安を感じる場所は、「スーパーマーケット・ショッピングモール」(52.2%)、「公共交通機関」(51.2%)、「飲食店」(47.3%)の順となりました【図5】。

これをその場所に行く人で見ると、「公共交通機関」(66.4%)が最も高く、次いで「飲食店」(58.5%)、「旅行先」(54.6%)、「スーパーマーケット・ショッピングモール」(53.9%)の順となりました。

外出意向も高まり、通勤など外出が求められる状況も増えつつある中、店舗や交通機関の衛生には依然として不安が感じられています。衛生対策に対する事業者の一層の努力が求められていると言えるでしょう。

■ 家庭内での衛生意識は2021年2月調査に比べ低下

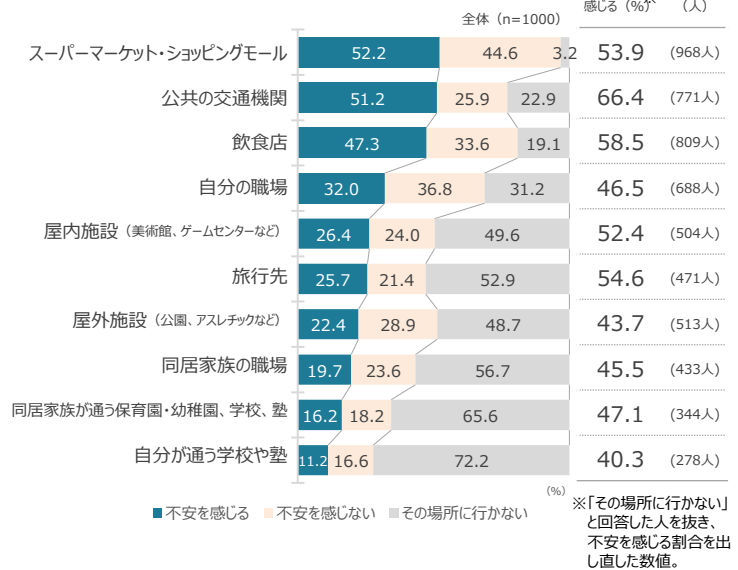
■ 衛生管理行動に「慣れてきている」と感じる人は増加、コロナ禍3年目で以前ほど意識しなくても衛生管理行動が身に付く定着傾向も

一方、家庭内での衛生意識を見ると、「意識している」と答えたのは64.1%となりました。しかし、2021年2月に行った調査では80.2%が「意識している」と答えていることから、16.1ポイントの意識の低下が認められました【図6】。

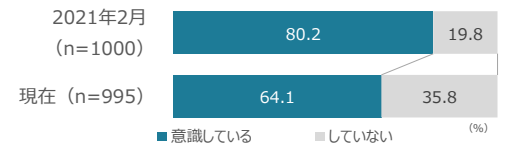
また、衛生管理行動について「疲れを感じている」と答えたのは、2021年2月に行った調査と比べほとんど変化がありませんでしたが、「慣れてきている」と感じた人は81.1%と多く、2月の時点(69.9%)に比べて11.2ポイント増えています【図7-1、7-2】。

「慣れてきている」と回答した人にその理由を聞いてみると、「コロナが長引いているから」(45.6%)「生活の中で衛生管理が定着しているから」(37.6%)の順に高く、そろそろ3年になるコロナ禍生活、ニューノーマルと呼ばれた新しい生活習慣にも慣れ始め、日常的に衛生管理行動ができるようになった定着傾向がうかがえます【図7-3】。

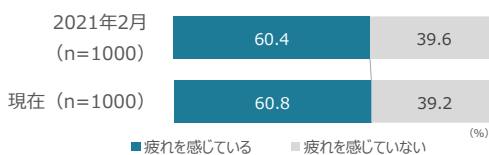
【図5】 外出先の衛生に不安を感じる場所



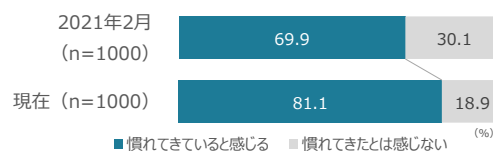
【図6】 家庭内の衛生意識



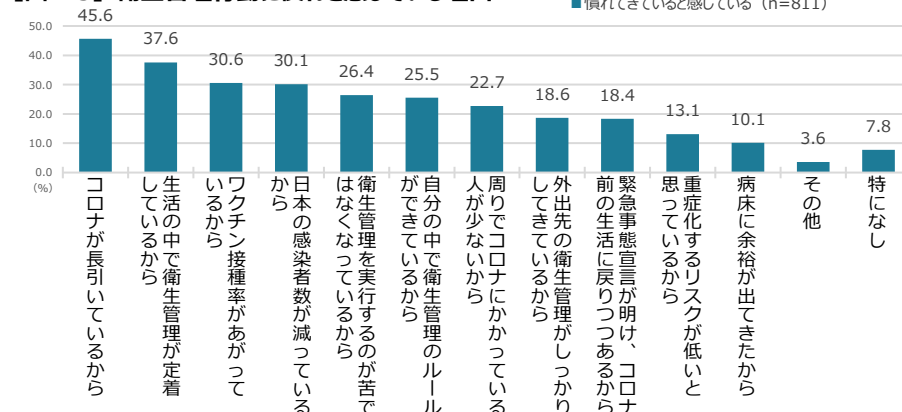
【図7-1】 衛生管理行動に疲れを感じている



【図7-2】 衛生管理行動に慣れてきている



【図7-3】 衛生管理行動に慣れを感じている理由



■ コロナ禍3年目で定着した衛生管理行動 ニューノーマルからノーマルになったのは

「避密」「外出自主規制」「No!つり革」「現金よりキャッシュレス」「マイマスクケース持参」

新型コロナの流行による衛生管理行動で、すでに当たり前になっていることを聞きました。すると、「密に見える場所や店舗には近寄らない」（45.2%）、「発熱や風邪の症状がある場合は外に出ない」（32.3%）、「公共交通機関の利用を控える」（31.3%）がトップ3に挙げられました。また、全体の3割が「現金を使わずキャッシュレス決済を利用」（30.6%）、4人に1人は「マスク入れを持参」（25.6%）と答え、新しい生活様式が根付き始めています【図8】。

当たり前になった衛生管理行動を具体的に聞くと、「コートなどの上着は家に入る前に玄関前でたく」（群馬県 46歳男性）、「チラシが入って混雑する日は買い物に行かない。価格が若干高くなってもすいている日に行く」（静岡県 69歳女性）などのほか、下記のような衛生管理行動が日常化し始めています。

【図8】 新型コロナの流行で当たり前になった衛生管理行動（複数回答）

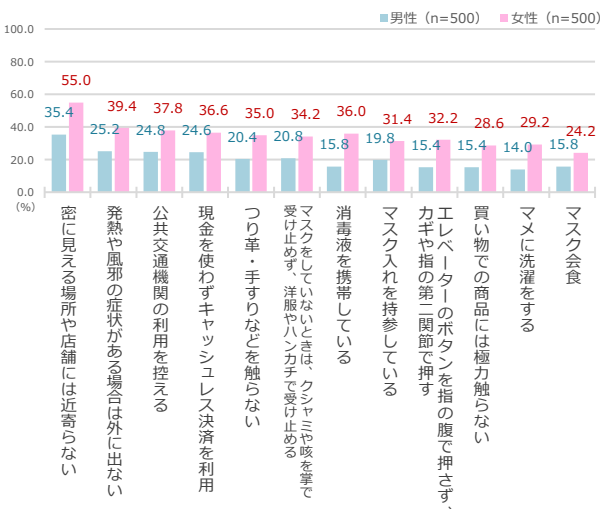
順位	衛生管理行動	割合 (%)	我が家の当たり前になった衛生管理行動
1位	密に見える場所や店舗には近寄らない	45.2	● 手づかみでお菓子・パンなどを食べなくなった（愛媛県 23歳女性）
2位	発熱や風邪の症状がある場合は外に出ない	32.3	● 配達物はなるべく置き配対応してもらう（東京都 24歳女性）
3位	公共交通機関の利用を控える	31.3	● 自分のものでないものに触れる機会が続く場合は、 ゴム手袋を使用 する (神奈川県 39歳女性)
	現金を使わず キャッシュレス決済 を利用	30.6	● ドアの開閉は 指先でなく肘 などを使う（千葉県 40歳男性）
	つり革・手すりなどを触らない	27.7	● 酸素飽和濃度を調べるものを家で購入して調べる（千葉県 44歳女性）
	マスクをしていないとき、クシャミや咳を掌で受け止めず洋服やハンカチで受け止める	27.5	● 風下を避ける（岡山県 45歳男性）
	消毒液を携帯している	25.9	● 買い物に行って購入する商品以外は手に取らない（埼玉県 58歳女性）
	マスク入れを持参 している	25.6	● かりつけの病院の先生に連絡して、 いつでも診断を受けられる ようになった (埼玉県 68歳男性)
	エレベーターのボタンを指の腹で押さず、カギや指の第二関節で押す	23.8	● 外出には必ずマスク着用、買い物の時には使い捨てのビニール手袋を付けて 入り口と出口で消毒し、車に乗る前に手袋を裏側にして脱いで捨てる (北海道 69歳女性)
	買い物での商品には極力触らない	22.0	
	マメに洗濯をする	21.6	
	マスク会食	20.0	

全体 (n=1000) (%)

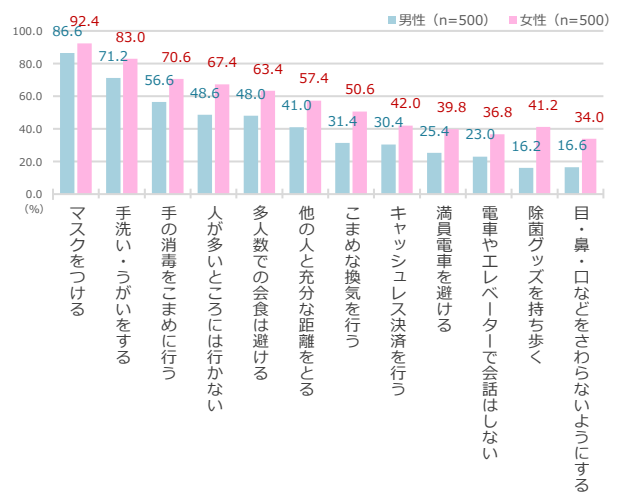
■ 男性よりも女性の方が衛生意識が高く、実践している

上記図8の当たり前になった衛生管理行動を男女別で見ると、いずれの項目も女性の方が実践率が高くなっています。また、P.3図4の現在行っている衛生管理行動についても、男性より女性の方が実践率が高くなっています。女性の方が衛生意識が総じて高く、積極的に実践する傾向があるようです。

Q.新型コロナの流行で当たり前になった衛生管理行動（複数回答）



Q.現在行っている衛生管理行動（複数回答）



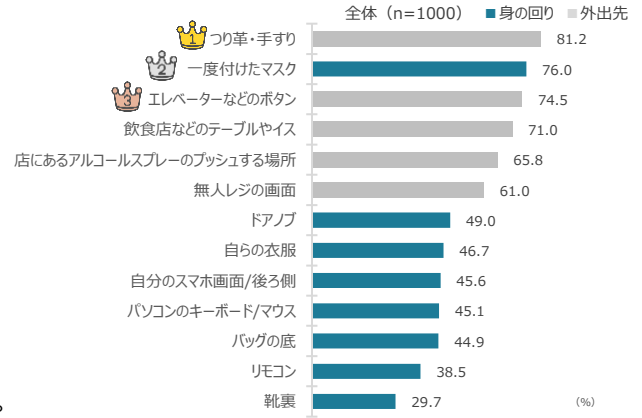
■ 手で触れるのが気になるTOP3 「つり革・手すり」「一度付けたマスク」「エレベータのボタン」

普段の生活の中で、触れることが気になる行動を挙げてもらいました。身の回りでは「一度付けたマスク」(76.0%)に触れることが最も気になるようで4人に3人が気にしています。次いで「ドアノブ」(49.0%)や「自らの衣服」(46.7%)の順となりました。

外出先では「つり革・手すり」(81.2%)、「エレベーターなどのボタン」(74.5%)、「飲食店などのテーブルやイス」(71.0%)の順となり、身の回りに比べると外出先で触れるものに対する心配度が高くなっています。不特定多数が触れる「店にあるアルコールスプレーのプッシュする場所」(65.8%)や、指で直接触れる「無人レジの画面」(61.0%)も6割以上の方が気にしています【図9】。

【図9】 触れることが気になる行動

スコアは「とても気になる」+「気になる」+「やや気になる」の合計



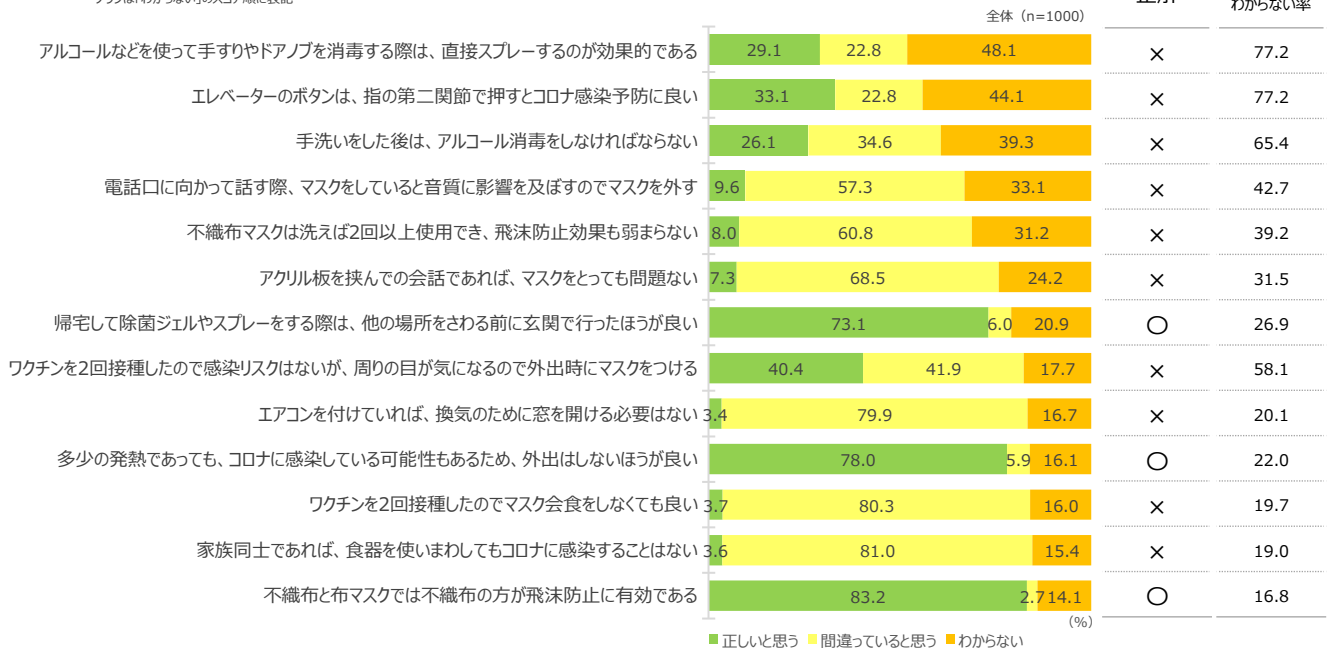
■ コロナ禍での感染対策、実は「わからない」ことも少なくない

アルコールは直接スプレーした方がいい？ 第二関節押しの予防効果は？

コロナ禍において、さまざまな感染対策が提案されています。それらの行動を挙げ、「正しい」「間違っている」「わからない」の3択で答えてもらいました。その結果、「不織布と布マスクでは不織布の方が飛沫防止に有効である」は83.2%が「正しい」、「家族同士であれば、食器を使いまわしてもコロナに感染することはない」には81.0%が「間違っている」と答え、多くの人が○×をはっきり判断できています。しかし、「アルコールなどを使って手すりやドアノブを消毒する際は、直接スプレーするのが効果的」(わからない：48.1%)、「エレベーターのボタンは指の第二関節で押すとコロナ感染予防に良い」(同44.1%)は4割以上が「わからない」と答えています。また、その2項目については、誤答とわからないの割合を足すと、約8割近くにのぼることも明らかになりました【図10】。

【図10】 コロナ禍での衛生管理行動の3択「正しい」「間違い」「わからない」

グラフは「わからない」のスコア順に表記



■ 正しいと思う ■ 間違っていると思う ■ わからない

コロナ禍の感染対策について、何が正しいのか、どのように判断をしてよいか迷うことも多々あります。

東京医療保健大学 菅原教授に、感染対策についてお話を伺いました。

コロナ禍の感染対策について、何が正しいのか、どのように判断をしてよいのか迷うことも多々あります。そこで、東京医療保健大学 菅原教授に、感染対策についてお話を伺いました。

マスク、換気、手洗い・消毒、発熱時の外出自粛など、基本的な衛生管理行動については正しく理解されていました。その反面、実は科学的になんら証明されていないのに確からしく見える情報もあるようです。

たとえば、「アルコールなどを使って手すりやドアノブを消毒する際は、直接スプレーするのが効果的」。一見正しそうに見えますが、有効だとは言えません。もちろん、手で頻繁に触れるところ（高頻度接触環境表面（High-touch surfaces, HTS））をアルコールで消毒すること自体は大切です。しかし、シュツとスプレーしただけではムラができてしまいます。スプレーしたあと、清潔な布などできちんと拭き取るようにしてください。

また、「エレベーターのボタンは、指の第二関節で押すとコロナ感染予防に良い」についてです。私たちは手のひら側を最も清潔に保ちたいという心理が働きます。よって、エレベーターのボタンなど不特定多数が触れる箇所を手のひら側で直接触れたいくないと考えるのでしょう。もちろん手の甲側（第二関節）を使用すれば一時的に手のひら側の接触を避けることにはなりますが、その手（手の甲側）が顔などに触れることはあり得ます。つまり、人間のさまざまな行動を考えると、手のどの部分も外界と接触しやすく、手の甲側といっても油断はできません。第二関節でエレベーターのボタンを押しても、その後の手洗いや消毒は忘れないようにしてください。

「ワクチンを2回接種したので感染リスクはない」も間違っているのですが、これを正しく答えられた方が40%にとどまっています。2回接種後も感染する（ブレイクスルー感染）ことが報告されています。ワクチンを2回接種しても、引き続き基本的な感染対策（マスク着用、手指衛生、人込みを避けるなど）は実行してください。

また3回目のワクチン接種も始まっています。接種可能な方は躊躇せずぜひ接種するようご検討ください。

また、調査全体を通じて、外に「行きたい」「行かなければならない（出社の再開など）」「でも不安」という気持ちがあがりました。マスク着用の習慣は定着しているようですので、屋外でも熱中症の危険がある猛暑日や、激しい運動中などをのぞいては、いつでもマスクを着用する習慣を今後も続けていただきたいと思います。また、店舗や交通機関などの事業者には一層衛生対策への努力を続けていただくと同時に、テレワークを継続するなど、社会全体で衛生管理行動を維持していくことも大切です。



菅原 えりさ（すがわら・えりさ）先生

東京医療保健大学大学院感染制御学教授。東京都iCDC感染制御チームメンバー。

1995年より日本赤十字社医療センター勤務。2012年東京医療保健大学大学院感染制御学博士後期課程修了。2016年より同大学大学院感染制御学教授（現職）
日本環境感染学会評議員、2013年より厚生労働省厚生科学審議会感染症部会臨時委員、2020年より東京都iCDC感染制御チームメンバー。新型コロナウイルス感染症対策では、ダイヤモンドプリンセス号の船内対応を皮切りに、厚生労働省、学会、都などからの要請に継続的に取り組まれている。